

ミクロン精密 株式会社

平成18年11月期 中間決算説明資料



本資料は投資を勧誘、推奨するものではありません。この情報に基づいての投資判断は、個人の責任において行ってください。

蔵王連峰とミクロン精密本社



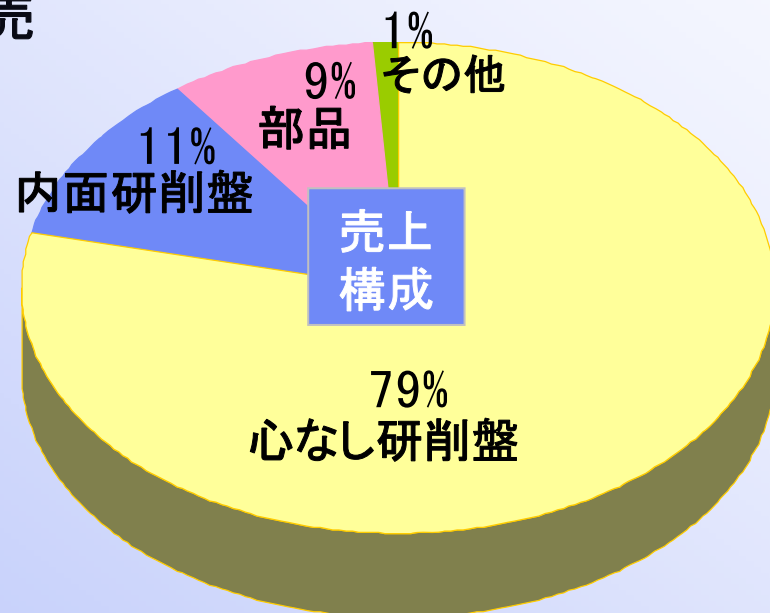
会社概要

- ◇社名: ミクロン精密株式会社
- ◇設立: 1961年10月
- ◇本社所在地: 山形県山形市蔵王上野578-2
- ◇代表者: 代表取締役会長 榊原 忠雄
代表取締役社長 白田 啓
- ◇事業内容: 心なし研削盤(センタレスグラインダ)
及び内面研削盤(インターナルグラインダ)と、
その周辺装置の製造、販売
- ◇業績(連結)
46期
【平成17年11月期】
売上高: 5267百万円
経常利益: 801百万円
当期利益: 451百万円

柄 久 齋 潔 技

【技術と人柄】

ものづくりはひとづくり、
そして感動のステージへ



当社の歴史

2010	<ul style="list-style-type: none">● 2005/09 EMO (欧州国際工作機械見本市)に初出展● 2003/07 ドイツにMicron Europe GmbHを設立● 2000/03 内面研削盤開発	<ul style="list-style-type: none">■ 2008 生産6000台到達見込■ 2001 生産5000台到達
2000	<ul style="list-style-type: none">● 1998/04 ハイテクノロジーセンター落成 (ナノオーダーの加工精度を目指す)	<ul style="list-style-type: none">■ 1994 生産4000台到達
1990	<ul style="list-style-type: none">● 1989/02 米国 CATERPILLAR 社に初納入● 1988/06 米国にMICRON-U.S.A., INC. を設立● 1987/06 米国 AUTOCAM 社に初納入● 1980/08 日本電装株式会社(現:株式会社デンソー)に初納入	<ul style="list-style-type: none">■ 1988 生産3000台到達■ 1980 生産2000台到達
1980	<ul style="list-style-type: none">● 1978/01 トヨタ自動車株式会社に初納入	
1970		<ul style="list-style-type: none">■ 1969 生産1000台到達
1960	<ul style="list-style-type: none">● 1968/05 社名をミクロン精密株式会社に変更● 1963/04 株式会社不二越 に初納入● 1961/10 中川精機製造株式会社として発足	
	<ul style="list-style-type: none">● 1958/09 中川精機株式会社山形工場として創業	

AAM “Supplier of the Year” 受賞



2006年6月、American Axle & Manufacturing (AAM)より
“Supplier of the Year” を
受賞

AAM・・・アメリカの大手自動車部品メーカー
(車軸関係の部品で北米37%、全世界13%の
シェアを持つ企業)

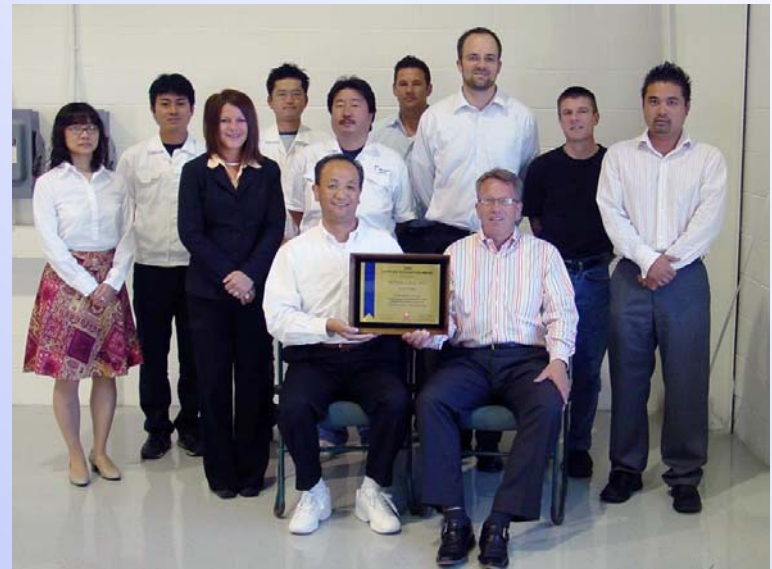
今回受賞した製品は、

当初は他社が受注していたものの、
技術的問題によりキャンセルが発生



弊社が解決策を提案し、受注が確定
更に
厳しい要求の納期を守って納入した

という経緯が評価された。



経済産業省から感謝状



2006年5月、経済産業省より
「明日の日本を支える元気な
モノ作り中小企業300社」
を受賞

「一般の目に触れにくいだが、重要な役割を果たしているモノ作り企業の姿を、国民に対して具体的に示す」ことを目的とした賞

選ばれた企業の特徴

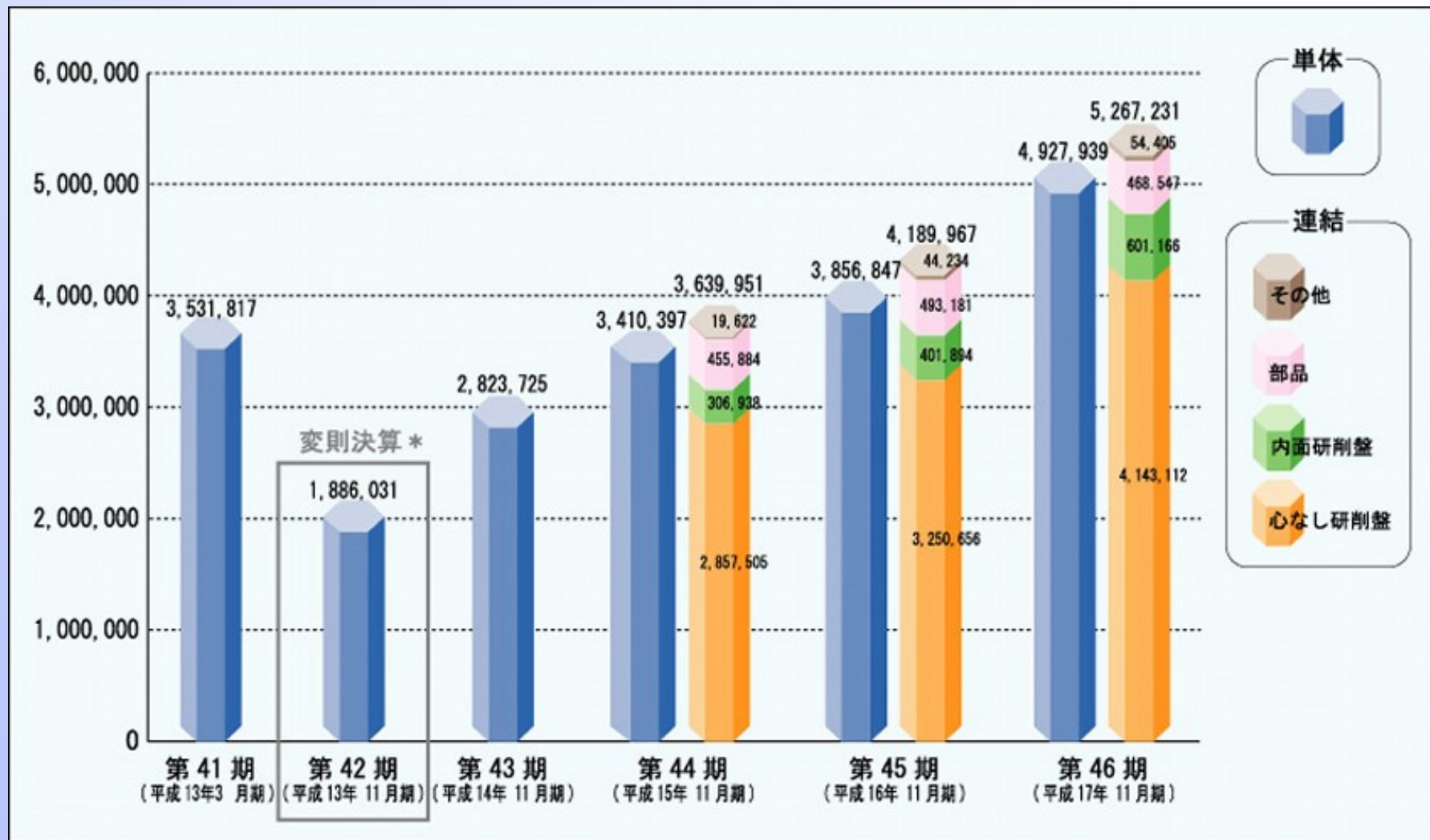
- ・世界規模の市場で高いシェアを持つ
- ・専門分野に特化し、独創的で高度な技術を持つ

東北からは22社、山形県からは7社が受賞



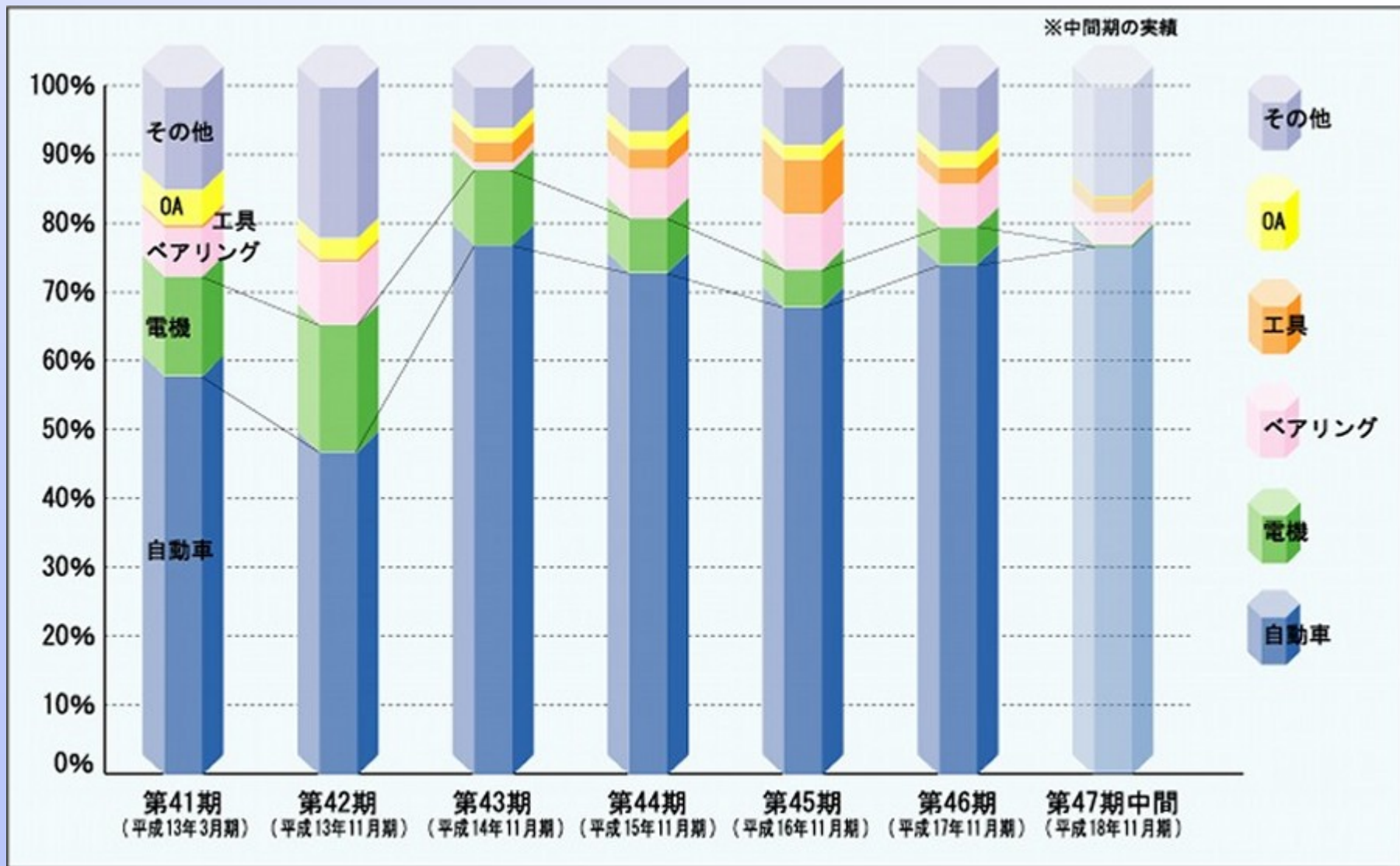
売上高の推移

(単位:千円)



* 第42期は決算期を変更し平成13年4月1日から平成13年11月30までの8ヵ月間決算となっております。

業種別売上比率の推移



* 第42期は決算期を変更し平成13年4月1日から平成13年11月30までの8ヵ月間決算となっております。

平成18年11月期中間期実績 損益計算書(連結)

(百万円)

	平成17年11月期 中間期実績		平成18年11月期 中間期実績		前中間期 からの 伸び率
		構成比		構成比	
売上高	2,455	100.0%	3,054	100.0%	+24.4%
売上総利益	740	30.1%	1,099	36.0%	+48.5%
販売費及び一般管理費	478	19.5%	461	15.1%	-3.5%
営業利益	262	10.7%	638	20.9%	+143.5%
経常利益	318	13.0%	601	19.7%	+88.8%
中間純利益	179	7.3%	350	11.5%	+95.5%

売上高につきましては、心なし研削盤に加え内面研削盤の売上が貢献した事により前年同期比を上回っております。売上総利益につきましては、リポート機の売上による利益率の上昇に加え、販売費及び一般管理費が、主に減価償却費や販売手数料の減少により下回ったことにより、営業利益の上昇に貢献致しました。その結果、為替差損の計上はありましたが、経常利益、中間純利益とも前年同期比を上回りました。

平成18年11月期中間期実績 品目別売上高(連結)

(百万円)

	平成17年11月期 中間期実績		平成18年11月期 中間期実績		前中間期から の 伸び率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
心なし研削盤	2,014	82.1 %	2,262	74.1 %	+12.3%
内面研削盤	208	8.5 %	515	16.9 %	+146.9%
部品	199	8.1 %	265	8.7 %	+32.9%
その他	32	1.3 %	11	0.3 %	-66.0%
合計	2,455	100.0 %	3,054	100.0 %	+24.4%

心なし研削盤に加え内面研削盤が前年同期比を上回った背景には、国内自動車部品メーカーへの売上増によるものであります。その他の売上につきましては、主に前年のアメリカの大ロユーザーへの売上が今中間期では計上がなかったことにより、前年同期比を下回っております。

平成18年11月期業績予想 損益計算書(連結)

(百万円)

	平成17年11月期実績			平成18年11月期予想		
		構成比	前期からの 伸び率		構成比	前期からの 伸び率
売上高	5,267	100.0 %	+25.7%	5,838	100.0 %	+10.8%
売上総利益	1,558	29.6 %	+23.1%	1,900	32.6 %	+22.0%
販売費及び一般管理費	955	18.2 %	+14.2%	992	17.0 %	+3.8%
営業利益	602	11.4 %	+40.6%	908	15.6 %	+50.8%
経常利益	801	15.2 %	+81.0%	968	16.6 %	+20.9%
当期純利益	451	8.6 %	+69.2%	565	9.7 %	+25.3%

売上高につきましては、主需要先である日系自動車部品メーカーの積極的な生産設備投資とベアリング業界の増産設備投資が堅調に推移していることから、対前年比10.8%増の58億38百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、原材料の上昇懸念はあっても価格転嫁進捗状況とコストダウン、それに上記増産効果が加わりますので対前年比20.9%増の9億68百万円となる見込みであります。当期純利益につきましては、このような状況から対前年比25.3%増の5億65百万円となる見込みであります。

平成18年11月期業績予想 品目別売上高(連結)

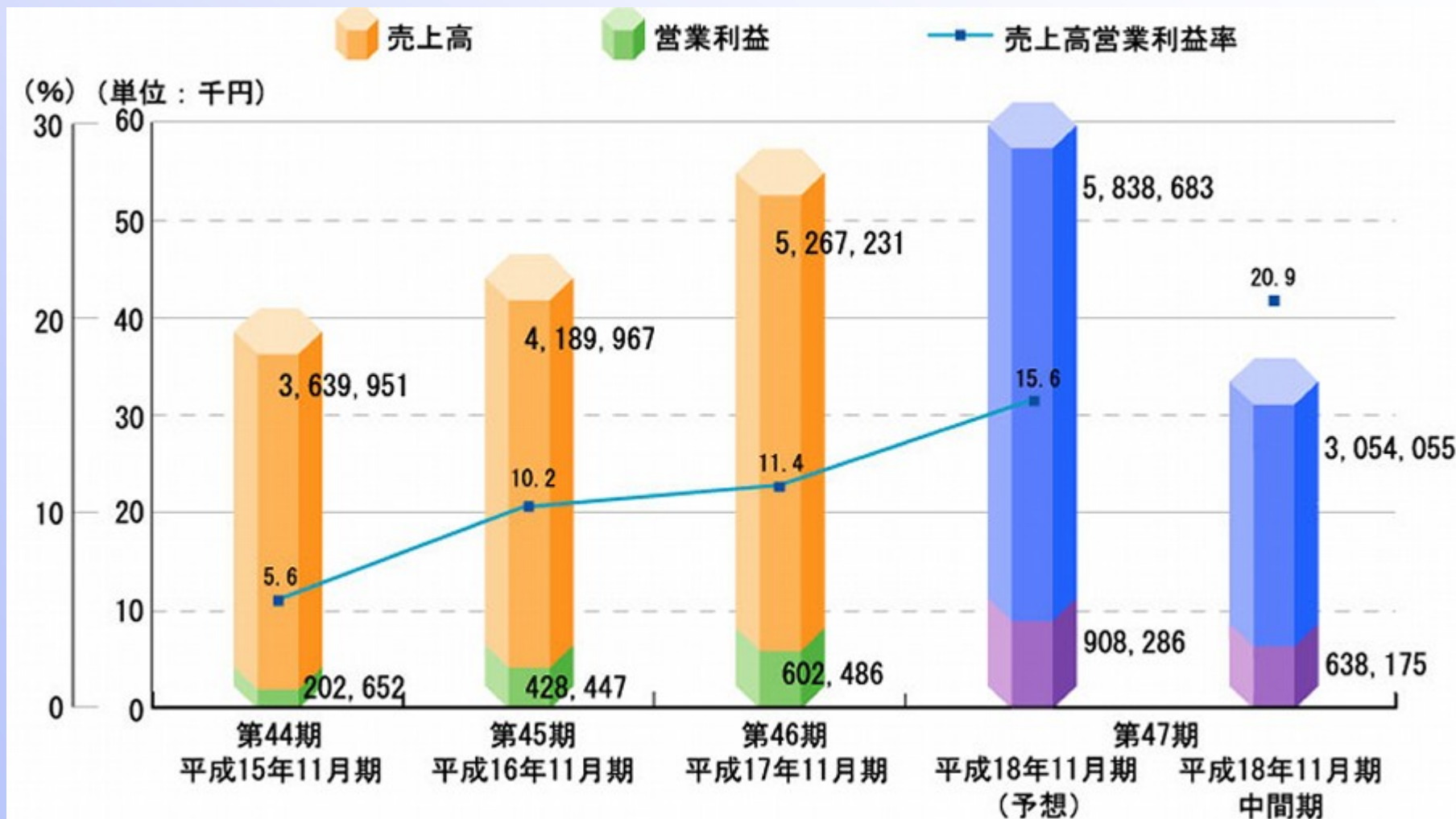
(百万円)

	平成17年11月期実績			平成18年11月期予想		
	売上高	構成比	前期からの伸び率	売上高	構成比	前期からの伸び率
心なし研削盤	4,143	78.7 %	+27.5%	4,436	76.0 %	+7.1%
内面研削盤	601	11.4 %	+49.6%	891	15.3 %	+48.3%
部品	468	8.9 %	-5.0%	422	7.2 %	-9.8%
その他	54	1.0 %	+23.0%	87	1.5 %	+61.2%
合計	5,267	100.0 %	+25.7%	5,838	100.0 %	+10.8%

内面研削盤については、ディーゼル用部品加工の需要増の見込みから国内大口取引先への納入を見込んだことによるものであります。その他の売上については前期に引き続き、アメリカを中心としたテスト依頼の増加によるものであり、心なし研削盤については、微増と見込んでおります。

部品売上の伸び率がマイナスとなっておりますが、部品のみでの売上よりも作業を伴う売上が増加するものと見込んだことによります。

売上高と営業利益の推移（連結）

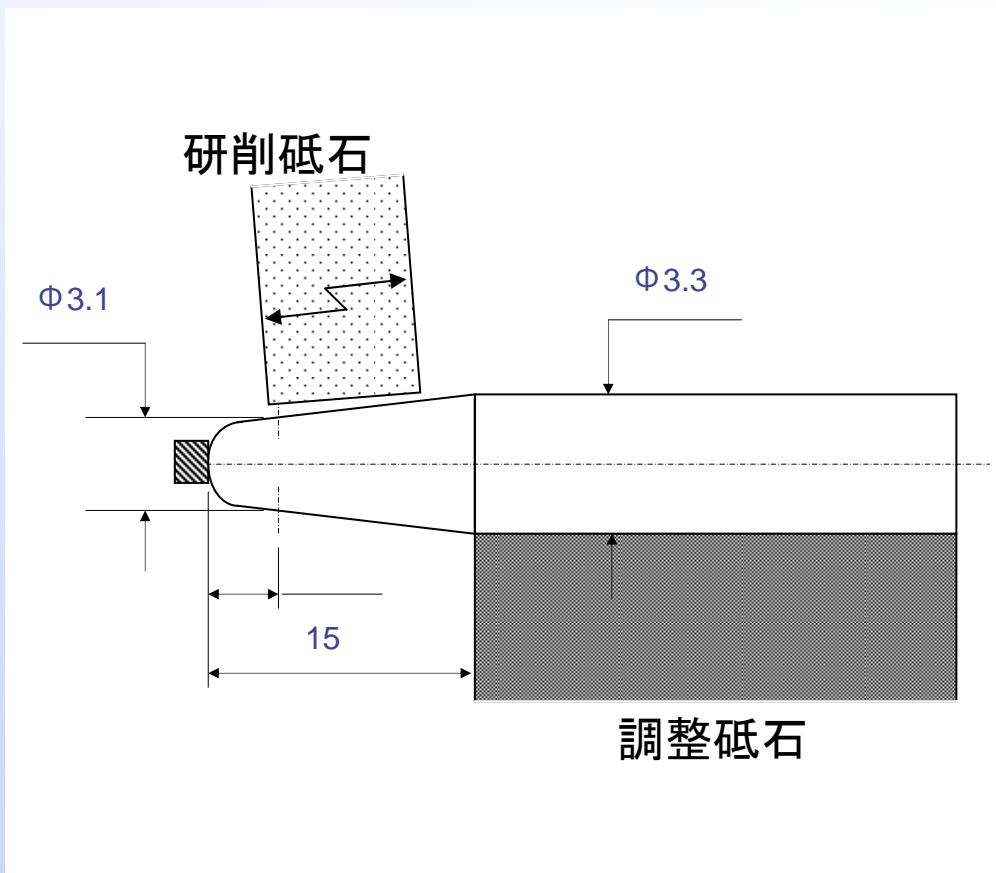


今後の経営展開

1. 新機種の開発(高工程能力)
2. クリーンディーゼルエンジンへの貢献
3. 最先端技術への取り組み
4. グローバル展開
5. 営業拠点の強化

新機種の開発

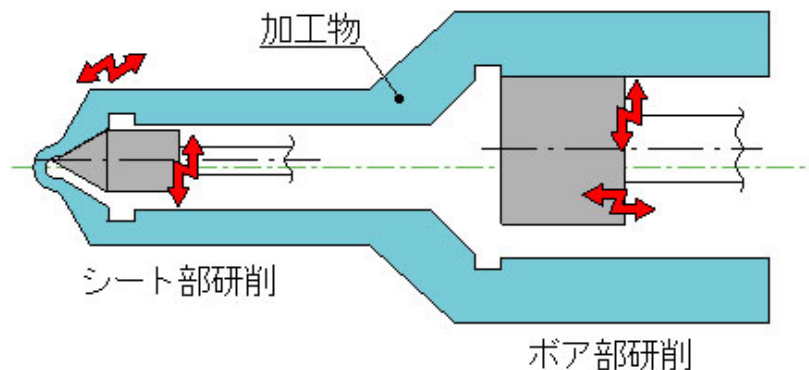
心なし研削盤 MGS-300



出展機MGS-300は、コンパクトな研削砥石2軸可動型多機能センタレスグラインダとして、多品種少量生産における段取替え作業の能率に優れた機種。

新機種の開発

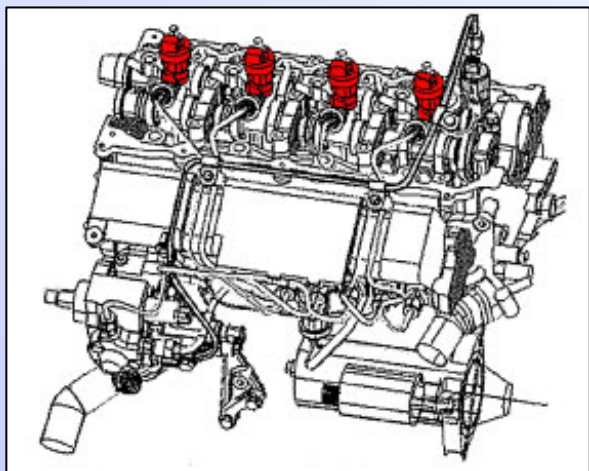
内面研削盤 MIG-220P



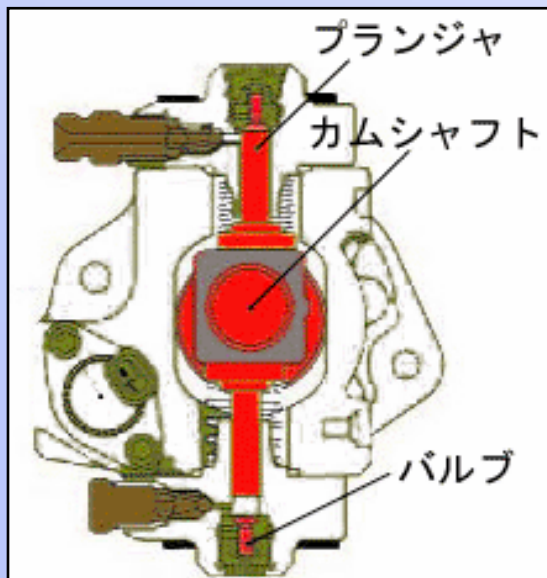
ダブルチャック、ダブルスピンドル採用により、内面の2ヶ所同時加工が可能。2工程の研削加工を1回のチャッキングで行うことにより高精度・高能率の内面研削加工を実現。

さらに、年内に心なし研削盤を2機種、内面研削盤を1機種開発

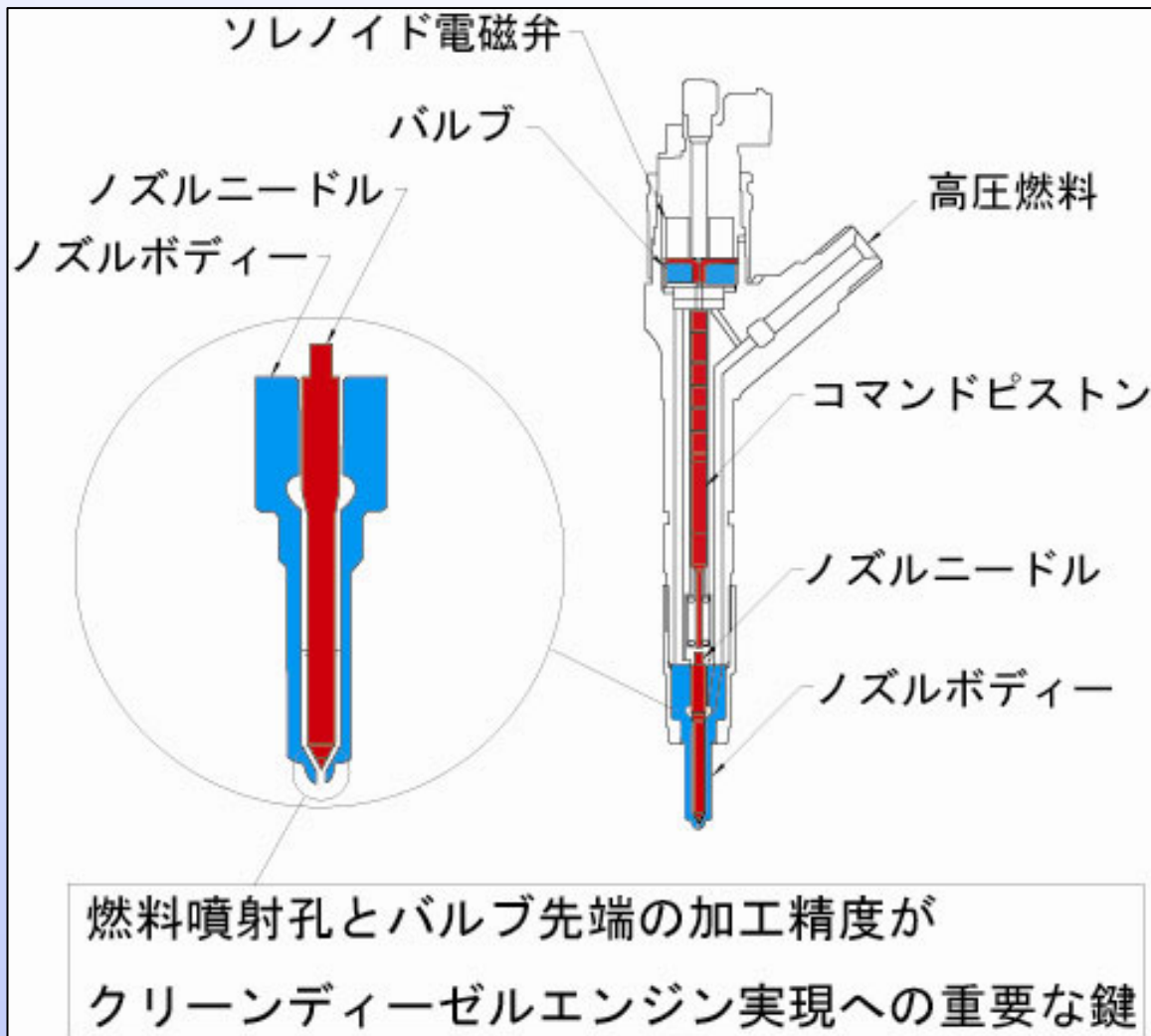
クリーンディーゼルエンジンへの貢献



ディーゼルエンジン



サプライポンプ

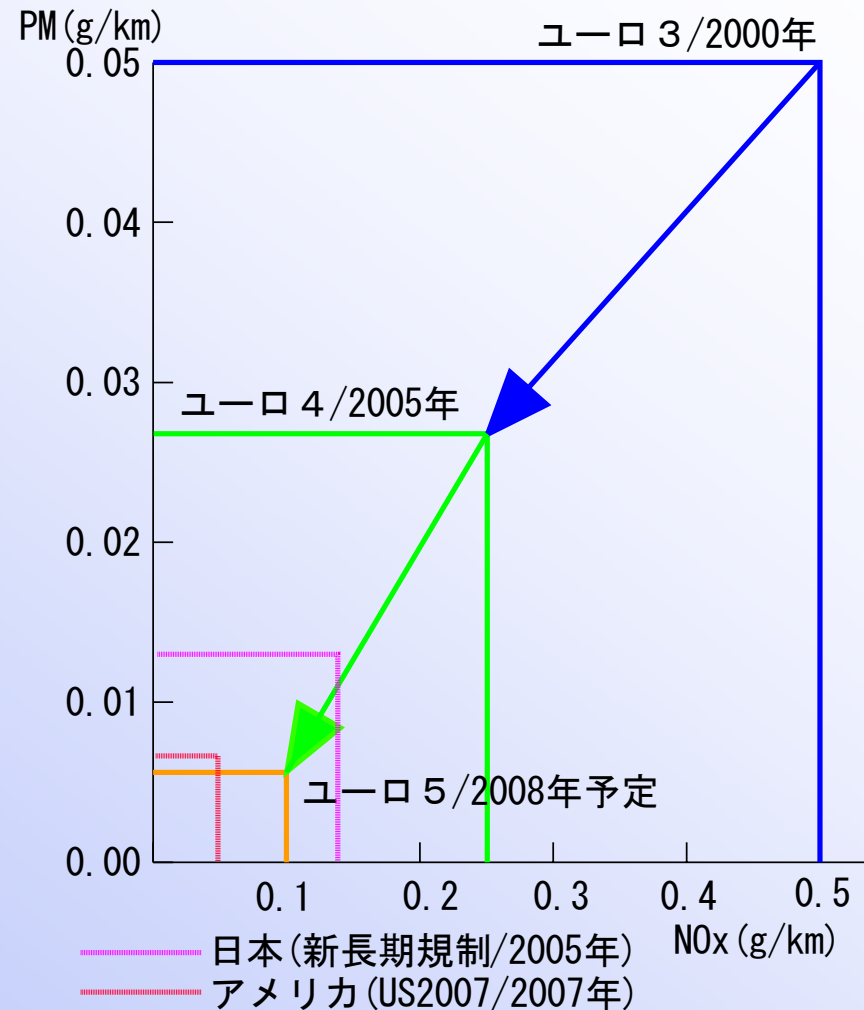


ソレノイド式インジェクタ

厳しくなる環境規制への対応

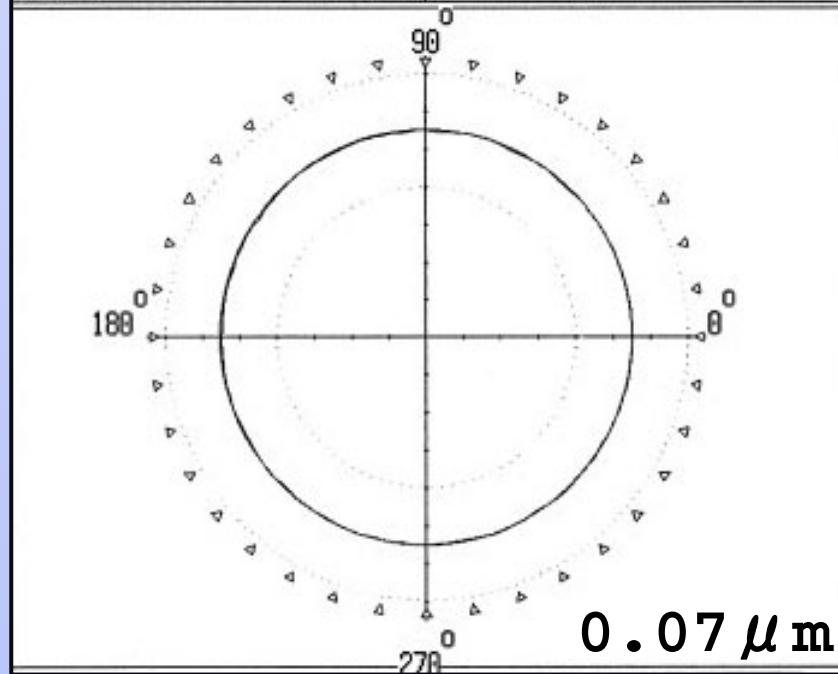
- 欧州の環境規制クリアーに向け、ディーゼルエンジンの開発競争激化
- NOxとPMの排出削減のカギを握る燃料噴射の高圧化技術
- ユーロ4で1600気圧達成。ユーロ5(2008年予定)で2000気圧以上へ
- 高圧化技術に不可欠な主要部品の真円加工技術 当社の技術で貢献

世界環境規制推移



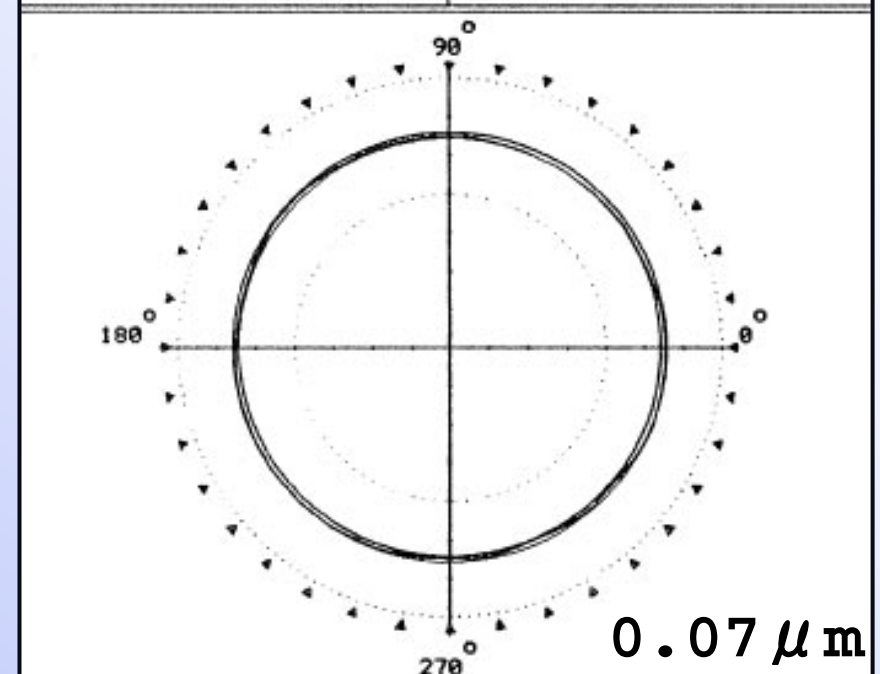
真円加工技術で貢献

L.S真円度の結果		半径	8.9197 mm
フィーチャ名	F	データム	スピンドル
測定番号	01	フィルタ種類	2CR
○	0.07 um	フィルタ	1-15 upr
E	0.07 um	形状	100.0 %
∠	40.4 deg	測定モード	外周面
↗	0.18 um	測定日	12-05-2005
スケール	1.00 um	測定時刻	14:41:36
Z高さ	70.0 mm		



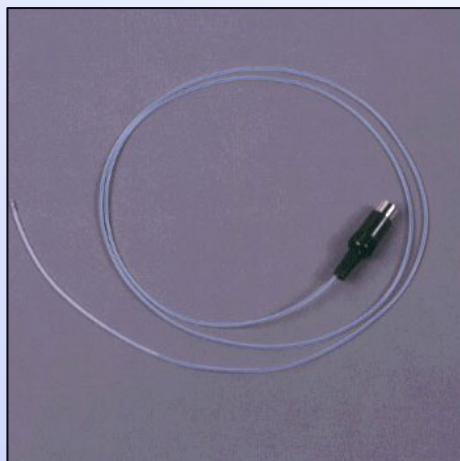
心なし研削盤による加工精度

RZ ROUNDNESS RESULTS		Datum	SPINDLE
Feature name	DEFAULT	Filter type	Gaussian
Feature no.	15	Filter	1-15 upr
R	21.487 mm	Profile	100.0 %
○	0.07 um	Meas. mode	External
E	0.14 um	Meas. date	11-22-2001
∠	252.3 deg	Meas. time	14:46
↗	0.33 um		
Scale	0.50 um		
Z height	127.5 mm		



内面研削盤による加工精度

最先端技術への取り組み



カテーテル
(先端部分)



携帯電話
(カメラレンズ)



ハードディスク
(シャフト)



液晶ディスプレイ
(バックライト)

グローバル展開

世界3大工作機械見本市に新型機を出展

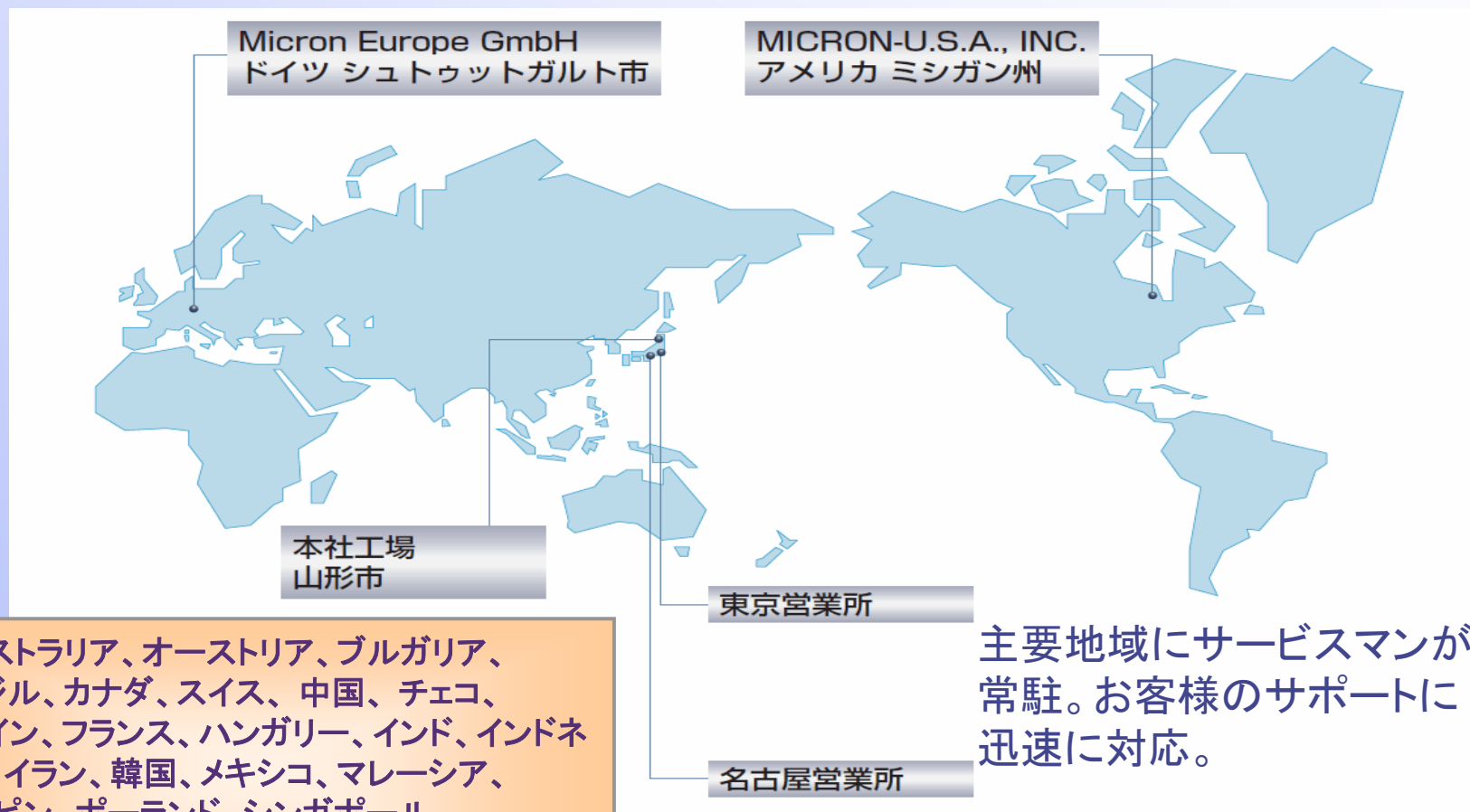
昨年の欧州EMO展(欧州国際工作機械見本市)に出展
今年は3つの工作機械見本市に新型機を出展を計画

- * **米国のIMTS (国際製造技術展)** 9月6日～13日 シカゴ
展示機種: MPC-300型、MSL-600III-15D型、MIG-1GA-110W型
- * **ドイツのAMB (国際金属加工見本市)** 9月19日～23日 シュトゥットガルト
展示機種: MPC-150HP型
- * **日本のJIMTOF (日本国際工作機械見本市)** 11月1日～8日 東京ビッグサイト
小間番号: E-6052(東6ホール 52)
展示機種: MPC-300型、MPC-600II-SP-RDP-CNC-AngI型、MIG-10U型



グローバル展開

世界三極体制でワールドワイドにフォロー



オーストラリア、オーストリア、ブルガリア、
ブラジル、カナダ、スイス、中国、チェコ、
スペイン、フランス、ハンガリー、インド、インドネ
シア、イラン、韓国、メキシコ、マレーシア、
フィリピン、ポーランド、シンガポール、
ルーマニア、ロシア、タイ、トルコ、香港、
台湾、アメリカ、ベトナム（全28ヶ国）

主要地域にサービスマンが
常駐。お客様のサポートに
迅速に対応。

営業拠点の強化

中部サテライトの建設

— 完成予想図 —



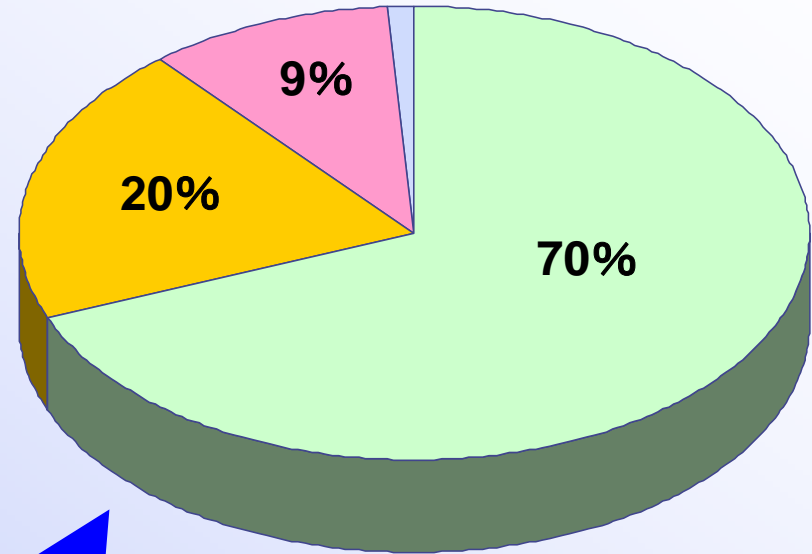
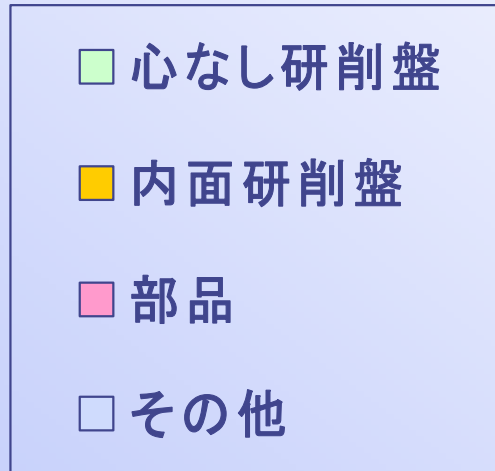
中部東海地区のお客様とのより円滑な情報交換の場として、
中部サテライト(愛知県愛知郡長久手町)を建設
※完成予定・2006年12月

中期経営目標

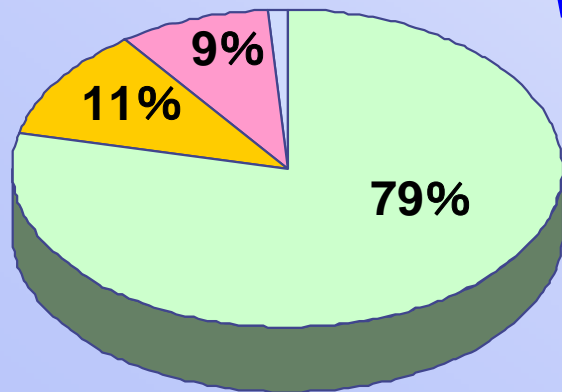
世界一のものづくりと技術開発

1. テスト機(実験機)をリニューアル、高精度測定器を導入
研削加工精度、及び能率で世界最高レベルを目指す
2. 新素材合金(超耐熱合金、高硬度鋼等)の研削技術の確立
3. 最先端ディーゼルエンジン部品の加工技術を欧州市場へ展開
4. 異業種メーカー、学術機関との共同技術開発を促進
高付加価値研削盤の開発

品目分類別売上比率目標 2010年



80億円

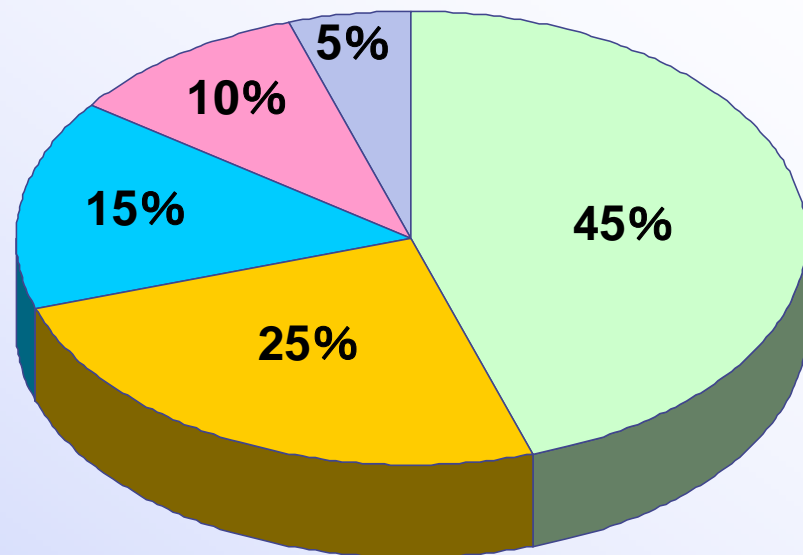
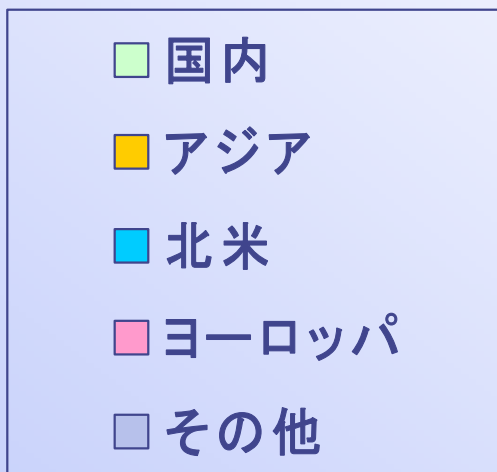


58億円

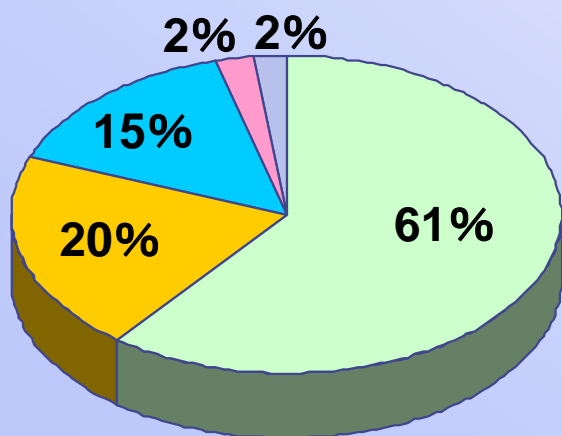
具体的プラン

- ・新分野への販売展開
- ・新規外注先の開拓
- ・外注先へのユニット発注
- ・社内製造工程における効率アップ

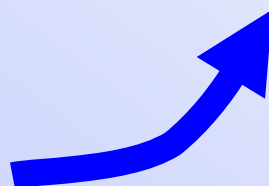
地域別売上比率目標 2010年



80億円



58億円





問い合わせ先 管理部

電話 :023-688-8112

FAX :023-688-8545

<http://www.micron-grinder.co.jp>

●将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。